

## センター第三期の研究成果について

非文字資料研究センター  
センター長  
内田 青蔵  
UCHIDA Seizo

2008年4月に発足した本非文字資料研究センターは、創設以来一期3年を単位として活動を推進してきました。活動を行うにあたって一期3年を単位として実践してきたのは、初代センター長である福田アジオ先生によれば、「3年で区切ることで、研究の達成目標を明確にし、また3年ごとに新しい研究を組み込む可能性を作」ることができると考えられたからにほかなりません。言い換えれば、常に明快な目的意識を持ち、新鮮な気持ちで新しい研究に挑戦するための心構えを表現しているものといえるでしょう。

本研究センターの主な活動は、非文字資料研究の拠点としての非文字資料研究ネットワーク形成、非文字資料研究を担う若手研究者の育成、非文字資料研究の情報発信という基幹事業と、学内外の研究者で行う個別共同研究による研究事業からなります。

さて、2008年度から開始された本研究センターの活動は、2014年度から第三期の活動期間に入り、基幹事業の継続と共に新たな研究事業としての多様な個別共同研究が進められてきました。そして、2016年度に無事終了しました。

第三期は、以下のように基幹事業の継続と共に研究事業として9テーマの個別共同研究班を組織し、活動を積極的に展開してきました。

### ○基幹事業

- ・非文字資料研究ネットワーク形成
- ・若手研究者の育成
- ・情報発信

### ○研究事業・課題名

1. 生活絵引編纂共同研究
  - ・『マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引』編纂共同研究
  - ・『日本近世生活絵引 南九州編』編纂共同研究
  - ・『19世紀前期ヨーロッパ生活絵引研究』編纂共同研究
2. 『中国・朝鮮の旧日本租界』共同研究
3. 『海外神社跡地のその後』共同研究

4. 水辺の生活環境形成に関する共同研究
  - ・『汽水の生活環境史』共同研究
  - ・『船上生活者の実態とその変容に関する研究』共同研究
5. 『戦時下日本の大衆メディア研究』
6. 『インターネット・エコミュージアムのためのデータマイニングとユーザインタフェース等の基盤技術に関する研究』

とりわけ、基幹事業では、ネットワーク形成事業として新たにイギリスのセインズベリー日本藝術研究所と提携を結び、主に研究者の研究交流を進めることを計画しました。また、ネットワーク形成事業として、提携校であるカナダのブリティッシュコロンビア大学（UBC）と中国の浙江工商大学東亜研究院との共同シンポジウム、さらに台湾の台湾大学との共同シンポジウム、をそれぞれ開催しました。

情報発信としては、年1回発行の『年報 非文字資料研究』を年2回の発行とし、その名称も『非文字資料研究』と改め、非文字資料研究に関する研究論文・研究ノート等を早く広く周知できる環境を整えました。また、若手研究者育成として行っている招聘・派遣研究員の成果報告を、『非文字資料研究に飛び立つ 海外招聘・派遣事業報告集』の名の独立刊行物とし、その研究成果を広く周知することを目指しました。

研究事業としての個別共同研究は、6課題9班で組織され、積極的な研究が展開されました。この3年間の研究期間内で、既に公開研究会あるいは『非文字資料研究センター News Letter』や『非文字資料研究』の紙面を通じて研究成果の一部を公開してきました。第三期の終了に伴い、各研究班の研究目的・活動経過および研究成果、そして、今後の展望を本書で簡潔にまとめ報告しています。また、詳細な研究成果である研究論文は、本書に掲載したものと2017年度に独立刊行物として刊行するものがあります。特に、独立刊行物では、長年発行が途絶えていた『マルチ言語版絵巻物による日本常民生活絵引』第4巻の刊行が予定されています。長年発行が途絶えていたこともあり、とりあえず、英語版の刊行の予定です。今後、当初の計画にあるようにマルチ言語の語彙集も製作の予定です。

いずれにせよ、この第三期における個別共同研究は、個々の公開研究会の活動を見ただけでも、極めて積極的に行われていることが窺えます。こうした活動を通して、今後の研究に結びつき、本センターが世界の非文字資料研究センターへと発展していくことを目指しています。

なお、次年度から第四期の研究事業として様々な共同研究に着手することになりますが、第四期では新たな6課題9班の共同研究を想定し、研究の準備が進められています。読者の皆様から引き続き非文字資料研究センターの事業への御助言と、忌憚のないご批判をいただきながら、本研究センターの一層の発展に向かって邁進していきたいと考えております。どうぞ、よろしくお願い申し上げます。